時軍新報

稅源甚だ豐なり

今の日本の國力に於ては歲入增加の如き多々ます〳〵辨ずるに難からず數の明白に示す所なれば政府の當局者たるものは大膽、事に當りて大に國務の擴張を謀る可し蓋も遠慮に及ばざるみとなり或は政治家の中には今朝は先入の主想を脫するみと能はずして事を處するに小膽なるもの少なからざる如くなれども少しく現在の事實を省みたらば釋然解悟する所ある可し差當り國力發達の例を云はんに數年前に於ける我國統計の數を見れば億の字を用ふるみとは殆んど絕無にして貿易の總額は幾千萬圓歲入歲出の額も同じく千萬臺の數にして以上の數字を見ざりしに近來に至りては貿易は二億以上に進し歲入の實數も一億に上り諸會社の株金も幾億を算する等日常の實際に億の數を用ふるは普通の事なり統計の數字にして果して事實に相違なきに於ては國力の實際は非常の發達を知るに足る可し僅々數年の間にして斯〳〵の如しとあれば今後の進歩尙は圖る可らず駸々進んで止まざる國勢の中に顧みて國事の施設如何を見れば計畫の規模甚だ小にして從來の時勢に於てさへ國力に比較して消極に失するの實を免れざりしに然るに現に事の急を告ぐるの今日に至り尙ほ左視右顧の態を呈して大に擴張の勇斷なしとは自家の知見、國力の實際を解せずして獨り自から杞憂を覺るものには非ざるか政府現在の歲入は億々の額に過ぎず其內にて進操算減を思へばみを苦しきみとならんなれども國民の富力は綽々餘裕を存して多々ます〳〵辨ず可し國家事業は國民全體の爲にするものなり自家の爲め餘裕の幾分を惜くに異議はある可らず須らく歲入を增加して大に着手す可きものなり或は軍備の擴張に就ては伊太利の例など云々して警戒がましき說もなきに非ざれども伊國の如きは所謂歐洲の三國同盟に加入し漫に軍備の一點に力を注ぎたる爲めに彼の如き結果を招きたるものなり今の日本の國力を伊太利と比較して如何ぞと云ふに我輩の所見を以てすれば事ろ彼に優るも決して劣らざる可しと信ずる其國柄にてありながら軍艦の噸數に於ては彼の三分の一に足らず陸軍の兵數の如き殆んど比較の限りに非ざる程の次第なれば今國力相應の擴張を企てたりとて其覆轍を蹈むの掛念は萬々ある可らず敢て安心を厭る所なり況んや航海、鐵道、築港等の如き其他の事業に至りては何れも國力の增進を助くるものにして恰も資本を投じて利益を謀るに異ならず一般に希望する所なれば遠慮なく實行す可きものなり或は歲入の增加差支なしとするも實際に增稅の手段を如何す可しと云はんか既に國力充實の實ある以上は之を取るの手段は甚だ容易なり酒に取る可なり田畑に取る可なり會社に取る可なり取る可きの稅源は決して乏しからず又みれを取るに難からずと雖も凡そ租稅は如何なるものに取るも其結果は詰り國民一般の負擔に歸して特に一種の人民を苦しひるものに非ざれば收稅に最も便利なる稅源を選んで之に取るみと智者の事なる可し此點より見れば酒稅の如きは最も適當の稅源にして地租の如きも亦不可なりとせず無きものを取らんとするは難けれども有るものを取るは甚だ易し現在の國力に於ては敢て負擔に苦しまざるのみか綽々餘裕を存して稅源の豐なるは我輩の斷じて保證する所なり

雜報

○上海製造局の管理變更　同局は明治五年江蘇巡撫李鴻章の奏建に係り江南諸省の海軍に供給する兵器彈藥及び船舶を製造し東洋有數の鉅廠にして職員は正副總辨の外委員十餘人、司事百二十餘人幷に職工千百七十餘人（本年九月三十日調査）ありて從來南北洋兩大臣の會同管理に屬せしが去る十一月五日の上諭を以て其管理を變更し督辨軍務王大臣の直轄と爲し江蘇候補道劉麒祥をその總辨に任じたりと云ふ

○强學會の創立　近日北京の擢神學者社會に於て海外百般の事項を研究すべき學會を組織したり其首唱者は前朝鮮通商交涉事務總理袁世凱、軍機章、京兼熙、江西道監察御史王鵬運、翰林院編修丁叔鴻、翁弢夫（翁同龢の姪孫）曾廣銓（曾國藩の孫）事人張君立（張之萬の子）道臺陳蘅源及び總理衙門章京沈曾植以下十數人並に禮親王の甥なる子管某等にして其會を强學會と名け凡そ都察院軍機處、翰林院等に於ける知名の士及び外省入覲の文武官有志の者給事中洪良品、侍讀學士文廷式、布政使王之春、提督程文炳、龍殿揚等の如き咸斯會に列し現今全員數百名ありて兩江總督張之洞は銀五千兩を該會に寄贈し工部尙書孫家鼐は其館舍を貸與し戶部尙書翁同龢は戶部より補助金を支給するみとを唯し政に印刷機械を下付せり目下既に規則數萬部を刊し京中及び各省に發送したりと云ふ

○鳥羽鐵道會社の創立　同鐵道計畫の由は蕭號の紙上に記せしが尙ほ開く所に依れば同鐵道の線路は鳥羽より宇治山田町に至る延長十二哩にして又鳥羽港より三州濱郡停車場海岸迄は新形蒸汽渡船を用ひ東海鐵道（接續線）と爲す計畫なる由斯くの如くなれば今日の道筋即ち伊勢灣を迂回するものに比較すれば哩數に於て七十五哩を減じ時間に於て三時間餘實錢に於て凡そ九十六錢を減少する割合なりと云ふ會社の資本は錢道五十萬圓、汽船二十萬圓合計七十萬圓にして發起人の重なる人は土居光華、角利助、鶴田長兵衛、菅野元吉の諸氏（以上地方部）加東德三、村山長太郎、服部源三郎の諸氏（以上東京部）なりと云ふ

○汽車衝突の後報　奈良鐵道と京都電氣鐵道の列車衝突に就ては過日の紙上に記載する所ありしが京都地方裁判所にては右に關し夫れ〳〵取調中の處本月中に豫審決定の見込みなりと又京都電氣鐵道會社は遂に奈良鐵道會社に對し損害賠償請求の訴訟を起すみとなりたりといふ

○工業教員養成所生徒本入學　工業教員養成所各本科（本年九月學年始に於て假入學を許可せし者にして爾後其實性品行を審察し今回適當と認め本入學を許可せし者は金工科、木工科各々四人、染織工科、窯業科各々五人、應用化學科各々四人合計二十二人なりといふ

○橫濱停車場の人力車賃　橫濱停車場の人力車が其乘車賃の法外に高價なるは京濱間を往來する人の常に知る處なるが今高價なる內情を聞くに元來同所の人力車は其數を三十臺に限り鐵道廳と契約して停車場一部の家屋を借受け且つ場內の飲水を受負居るものにして之が爲め同場內に車を置くものは一人に付き毎日四錢宛の賃立金を納め來りし處此度に至り突然橫浜警察署は右三十名の內より三枝茂び藤井と云へる二人の車夫を撰拔して之を總取締と爲し停車場內車夫の事を一任したれば兩人は自ら三十五臺の人力車を造りて停車場內從來の車夫に對し自今各自所有の車は不體裁に就きて狀れも賣却して新らしき此車を用ふ可し然らざれば一切停車場內にて營業を許さずと言ひ渡し且つ又三十臺の制限を超えて三十五臺と爲さんとしたるにど車夫仲間は大に怒りて警察署に至り其不當を訴さんとしたるに警察にては高事二人に任せたる事故一人の爲す事は惡しかるまじとや思ひけん之を取上げぬより問着を起して車夫は代言人を依賴し目今交涉中の由なる斯くの如く制限を立てしは車夫の惡弊を正さんとの意なる可けれども之が爲め又一の專權營業を生じて三十五臺の車を所有すれば當代の收入一日三圓五十錢宛の收益ありて一臺二十圓と積るも七百圓の資金にて一箇年には之に倍加するの利益を生ずるものなれば警察の取締餘り嚴正に失して苦情の原と爲りしも又捷なきの事といふ可きのみならず車賃競爭の根を絕ち却て高價ならしひるは旅客の感謝といふ可し

○從軍藥劑官歡迎會　は一昨日午後一時より柳橋柳光亭に於て開きたる由來會者は二百餘名にて先づ一同の官眞を採り賓主一同の寫代として長井醫學博士の挨拶ありて來賓一同の寫代として石黑軍醫總監の答辭あり觴火、奏樂、落語、手踊等數番の餘興ありて終つて宴席に移り兩陛下の萬歲を三唱し同七時散會せりと云ふ

○官設鐵道收入旬報　去月二十一日より同三十日に至る十日間の官設鐵道收入概算は左の如し

年度	客車收入	貨車收入	收入總計
---	---圓---	---圓---	---圓---
本年度	一二三、三八二	三一、五四二	一五三、九二四
本年度	一一、七四三	九、三六三	二一、一〇六
本年度	一、六二三	七八二	二四〇五
合計	一四一、六八七	一七七、四三五	三一八、一二二
本年度	一三五、七四八	一七七、四三五	三一三、一八三
前年度	一一七、六〇一	八二、〇〇三	一九九、六〇四
增減	二三、一八六	四五、六八	一一五、五五八
減	一七、五八八		

○韓山悲話　茲に書出す一段の物語は韓客某氏より聞くとみろにして過る明治十七年、冬十二月四日の夜朝鮮國京城にて鄭政局創立の祝宴を開くに當り一大事變突如として起り、要路の大臣七人まで生命を宮門の露と失ひ、八人目の閔泳翊は身に二大刀の大疵を蒙りながら辛も息の根絕えしが遽なく葛藤の基と爲りて翌五日の早朝には開化黨と聞えたる銅陵閔宮朴泳孝、金玉均等を初めとし洪泳植、徐光範の輩をば大內に召させられ國事を御諮詢在りたれば積年の餘弊も茲に一新の沙汰あるならんと待設けたる甲斐もなく開化黨の國政は、憐れや、禍花一朝の香りを止めしのみにして、袁世凱が率ゐ來れる支那兵と事大黨と呼ばれたる韓人原とが合體し無法を行ふ腕力沙汰に施す術もあらばこそ金玉均、朴泳孝、徐光範、徐載弼、李圭完、申應熙、李容翼、鄭國敎、柳赫春、邊燁、林殷明、等上下僅かに十一人七日の午後姿を變て血路を開き仁川港（落延しも追手なか〳〵嚴しき爲め居るに場所なく、既に家なく殆ど困じ果てしと見てその時沖に碇泊せし三菱會社の郵便汽船千歲丸の船長辻龜三郎氏が一大義俠の精神を顯し之を救護して十一人を總て官船底（艙）まとしたるより金氏の如きは其名を岩田周作と變稱し其月の十三日長崎港まで逃げ來り、十一人が十一年間賴々孫々の苦勞を凌ぎて遂に昨年の事變に逢ひ目出度歸國したるまで日本に於て彼人々が經歷したる苦中に朝鮮の無辜の壞遇が慟怒剝奪げて其眞相を

金玉